

牛のベネデン条虫に対するフルベンダゾールの駆虫効果

東播基幹家畜診療所 丹波診療所

○阿波利英 門田文隆 小山憲司 西崎悟 齋藤隆文

ベネデン条虫は成牛に対する影響は少ないものの、若齢の牛では慢性的な下痢・被毛の粗剛化・発育不良等を引き起こすことがあり、その経済的損失は大きい。しかし、近年条虫の駆虫薬として用いられていたビチオノールの原末の製造が中止され、現場ではその対応に苦慮している。そこで今回、牛・馬・豚の内部寄生虫駆除剤として用いられているベンズイミダゾール系化合物のフルベンダゾールをベネデン条虫感染牛に対して投与し、駆虫・治療効果を検討したところ若干の知見が得られたので報告する。

材料および方法

調査期間：2011 年 10 月～2012 年 1 月

供試牛：繁殖和牛農家 5 戸で飼養される 6 ヶ月から 21 ヶ月齢の黒毛和種牛 13 頭、酪農家 2 戸で飼養される 9 ヶ月から 15 ヶ月齢のホルスタイン種牛 4 頭を用いた。

調査①：直腸便または新鮮便を用い、糞便検査（ウィスコンシン変法）にてベネデン条虫卵が確認された 12 頭（黒毛和種牛 10 頭・ホルスタイン種牛 2 頭）に対して、フルベンダゾール（フルモキサール散 5%：セラケム株式会社）10 mg/kg を単回経口投与し、投薬 3 日、1 週及び 1 ヶ月後に糞便検査を行い、ベネデン条虫卵の有無を確認し、同時に牛の一般状態・糞便性状を調査した。

調査②：食欲不振・下痢などを呈し往診依頼があり、糞便検査にてベネデン条虫卵が確認され、ベネデン条虫症が疑われた 5 頭（黒毛和種牛 3 頭・ホルスタイン種牛 2 頭）に対して、フルベンダゾール 10 mg/kg を単回経口投与し、臨床経過を 1 ヶ月間観察した。

結果

調査①：全ての供試牛で投薬 3 日、1 週及び 1 ヶ月後のいずれの糞便検査においても、ベネデン条虫卵は検出されなかった。投与後の下痢などの副作用も認められなかった。

調査②：全ての供試牛で投与後食欲の増加、糞便性状の改善など一般状態の良化が認められた。また、投薬 3 日、1 週及び 1 ヶ月後のいずれの糞便検査においても、ベネデン条虫卵は検出されなかった。

考察

今回の調査よりベネデン条虫に対するフルベンダゾールの高い駆虫効果が明らかとなり、駆虫後の便性状・栄養状態の改善も認められた。安価で副作用の少ないフルベンダゾールを用いて、発育に大きく関わる育成段階にベネデン条虫を積極的に駆虫することにより、農家の生産性が向上すると考えられた。